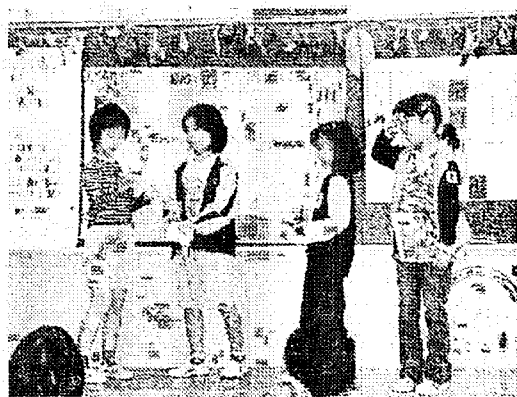


(小学校・生活科)

# 主体的に活動する子どもを育てる 生活科学習指導の工夫

—身近な自然とのふれあいを通して—



浦添市立当山小学校

金城 多美子

# 目次

I	テーマ設定の理由	1
II	目指す児童像	2
III	研究の目標	2
IV	研究の仮説	2
1	基本仮説	2
2	作業仮説	2
V	研究構想図	2
VI	研究内容	3
1	主体的な活動を高める支援の工夫	3
2	発表交流会の工夫	4
3	年間計画の作成	5
VII	授業実践	6
1	単元名	6
2	単元の目標	6
3	単元について	6
4	児童の実態	7
5	活動させる支援	7
6	指導計画	10
7	本時の指導	11
VIII	研究の考察	14
1	作業仮説1の検証	14
2	作業仮説2の検証	15
3	作業仮説3の検証	16
IX	研究の成果と課題	18
1	成果	18
2	課題	18
	【おわりに】	18
	【主な参考・引用文献】	18

# 主体的に活動する子どもを育てる生活科学習指導の工夫

—身近な自然とのふれあいを通して—

浦添市立当山小学校 金城 多美子

## 【要約】

本研究は、自然とふれあう体験を取り入れ、自然への気づきや喜びを感じさせることにより、児童自身が思いや願いをもって、主体的に活動する子を目指した生活科学習の工夫を試みたものである。

授業実践において子どもの思いや願いに即したグループ編成による、発見したことや調べたことを工夫して発表することができ、その後の活動にも積極的に自然と関わり、自分なりの思いや願いをもって追究しようとする学習態度が見られた。

**キーワード** □主体的な活動 □身近な自然とのふれあい □思いや願い □知的な気づき

## I テーマ設定の理由

経済や文化の発展にともない、子どもを取り巻く環境はいろいろな面で大きく変化し、21世紀を生きる子どもたちに社会の変化に主体的に対応できる能力や豊かな個性、創造性を身に付けさせることが求められている。

これからの教育においては、子ども一人一人のよさや可能性を生かし、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの育成を重視する学力観に立った教育を積極的に展開していくことが必要である。

学習指導要領「生活科」における目標は「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な社会や自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身につけさせ、自立への基礎を養う。」ことである。平成10年の学習指導要領の改訂では、生活科の現状課題として「直接体験を重視した体験活動は、単に活動するだけにとどまり、自分と身近な社会や自然、人に関わる知的な気づきを深めることが十分でない」と指摘された。また、その中で生まれる知的な気づきを大切にする指導が行われるようにすることを求められている。

本校は南に「浦添ようどれ」を望み、西には「浦添大公園」や「当山の石畳道」があり、比較的豊かな自然環境の中にある。このような環境では地域素材を取り入れた学習の展開ができ、生活科においても年間を通して自然にふれあう学習単元の

構成が可能である。

しかし、これまでの私の本単元の授業実践を振り返ってみると、身近な自然に直接関わる活動や体験を大切にしながらも、その中で児童が見い出す知的な気づきを見取り、深め発展させる支援を十分に行っていなかったと反省する。

自然と直接関わる活動では、児童は「なぜ、どうして」「すごいな」「不思議だな」等自分の思いや願いをもって進んで自然と関わることができ、感動したことや興味をもったことを誰かに伝えるために自分なりの表現をするという。そして体験で見つけた気づきを誰かに伝える発表することで満足感や充実感を味わい、新たな気づきをつくっていくという。

子どもなりに「知りたい」「わかるようになりたい」という思いや願いをもって、積極的に対象にかかわり、自分なりに工夫し追求しようとする姿勢が主体的に活動する子どもの姿だと捉える。

また、身近な素材を教材化することで子どもは身近な自然や環境に関心を持ち、進んで自然にかかわろうとする心情や態度が育つと考える。

本学級では、春には「わたしの町をしようかいしよう」で町の自然やお店、公共施設に行つてひみつを教え合い、夏には「夏をたのしむ」で草花の観察と虫取りをして遊んできた。秋には「秋を見つけよう」で春や夏との違いに気づき、冬には生き物の冬越しの様子を学習する。

このような、身近な自然にふれる体験を通して、自然や環境に関心をもたせ、一人一人の思いや願

いを生かした指導を工夫することで知的な気づきをし、主体的に活動する児童の育成が図れると考え、この研究テーマを設定した。

## Ⅱ 目指す児童像

身近な自然にかかわり、自分の思いや願いをもって、自分なりに工夫し追求しようとする子。

## Ⅲ 研究の目標

主体的に活動する子どもを育てるために、身近な自然とふれあう体験を通して、一人一人の思いや願いを生かした学習指導のあり方について実践的に研究する。

## Ⅳ 研究の仮説

### 1 基本仮説

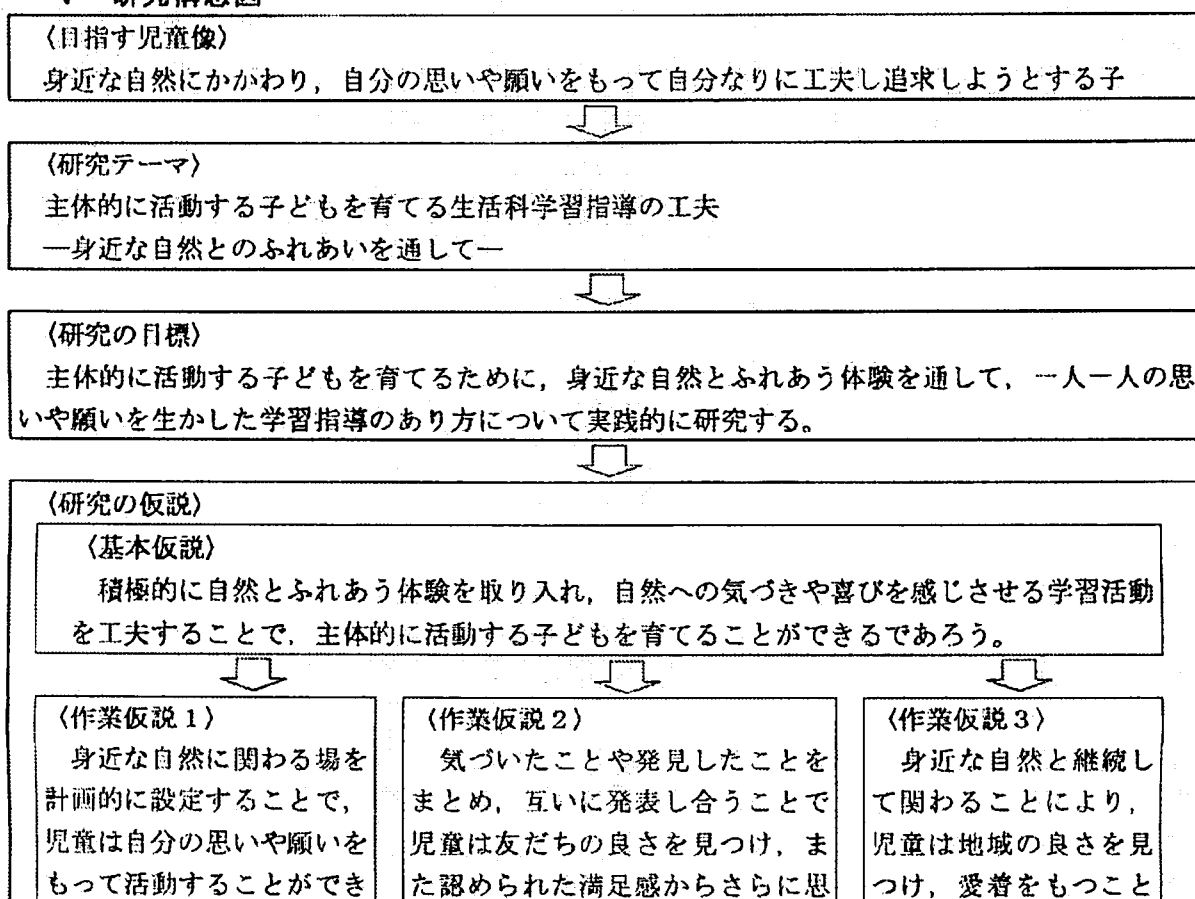
積極的に自然とふれあう体験を取り入れ、自

然への気づきや喜びを感じさせる学習活動を工夫することで、主体的に活動する子どもを育てることができるであろう。

### 2 作業仮説

- (1) 身近な自然に関わる場を計画的に設定することで、児童は自分の思いや願いをもって活動することができるであろう。
- (2) 気づいたことや発見したことをまとめ、互いに発表し合うことで、児童は友だちの良さを見つけ、また認められた満足感から、さらに思いや願いを膨らませることができるであろう。
- (3) 身近な自然と継続して関わることにより、児童は地域の良さを見つけ、愛着をもつことができるであろう。

## Ⅴ 研究構想図



るであろう。

いや願いをふくらませることができ  
るであろう。

ができるであろう。



#### 〈研究内容〉

1. 一人一人の思いや願いを生かした主体的な活動を高める支援の工夫
2. 気づいたことや発見したことを発表し合い、互いの良さを認め合う発表交流会の工夫
3. 身近な自然に関わることができる単元構成の工夫と年間計画の作成



#### 〈 授 業 実 践 〉



#### 〈 研 究 の 成 果 と 課 題 〉

## VI 研究内容

### 1 一人一人の思いや願いを生かした主体的な活動を高める支援の工夫

思いや願いを生かして活動するには、三つの視点がある。

#### (1) 活動を生み出す環境構成と支援

##### ① 子どもが活動する教室環境づくり

子どもが「おもしろそうだな」「してみたいな」と思えるような環境づくりをする。

##### ② 活動から子どもの思いや願いを見取る

一人一人の子どもたちが何に興味をもち、どんな思いや願いをもっているかを見取ることで、単元づくりのベースにすることができる。

##### ③ 思いや願いを出せる場をひらく

学校生活の中に子どもたちが思いや願いを出す場があり、他の子どもたちがそれを共感的に受けとめ、願いを重ね合わせて共有化し、実現する過程が保証されていることが、子どもの思いや願いを育てていく上で大切である。

##### ④ 思いや願いの表現から活動へ

書くことを通して、子どもは自らの思いや願いを意識したりふくらませたりする。そこで、子どもが自ら表現したことを仲間発表する場が大切になる。子どもの思いや願いは他の子どもとの関わりの中で広が

っていったり、一人の子どもの中で発展していったりする。

#### ⑤ 思いや願いを出し合って活動の計画づくりを

活動の計画づくりでは、子どもたちの思いや願いを重ね合わせて活動を作っていく。授業づくりでは、子どもたちからどんな思いや願いが出され、活動とどのように重なっていくか、そこで何が問題になるかを予想していく。

#### (2) 活動を発展させる授業づくり

##### ① 子どもとともに活動を作る

教師の側に、活動を子どもとともに作っていくのだという構えと手だてが求められる。

ア 単元(題材)の展開づくりを子どもと一しょに行う。

イ 本時の活動の中で子どもの思いや願いが生きる場を構想する。

ウ 個に応じた支援を構想する。

##### ② 子どもの思いや願いがふくらむ魅力的な出会いの場の設定

子どもたちが思いや願いを生かして活動に取り組めるように、場の構想と個への支援を行う。さらに子どもたちが思いや願いをふくらませて活動を発展していけるよう

に、教師が子どもたちにとって魅力的な学習材と出会让せる。

- ③ 子どもの思いや願いで活動を発展させる  
子どもの思いや願いを育てるには、子どもが「自分の思いや願いが起きた」「自分の思いや願いで活動が発展した」と実感した時である。充実感・満足感を味わえるような授業づくりをする必要がある。

### (3) 主体的な学習態度や能力の育成

活動を進めていくとき、子ども自身に自己選択・自己判断・自己決定を迫る場が次々と現れる。子どもは抵抗感を感じたり失敗したりしながらも、それらを一つ一つ乗り越えて活動を進めていく。子どもたちは活動を進めるなかで自ら考え、判断することを促され、しだいに主体的・能動的な学習態度や能力を身に付けていくことになる。こうした学習態度や能力を身に付けていくようにするためには、子どもの学びの状態に応じた、教師の適切な働きかけが必要になる。

## 2 気づいたことや発見したことを発表し合い、互いの良さを認め合う発表交流会の工夫

子どもたちは体験活動を通して様々なことに気づいているが、その場限りの気づきであることが多い。それを意識的な知的な気づきとして認識する必要がある。

### (1) 知的な気づきとは

子どもは、直接関わる活動や体験をする中で、人、社会、自然のことなどについて驚いたり、感動したり、不思議に思ったり、自ら考えたりなどして、様々なことに気づく。小学校1・2年生の子どもたちにとっては、行動することと思考し判断することが一体となっている場合が多く、気づきも、対象との情緒的な関わりが深くなると生まれやすくなる傾向がある。生活科でいう知的な気づきとは、子どもが思いや願いをもって取り組んだ活動や体験を通して、実感を伴って得られた気づきをさす。知的な気づきは、子どもがものを学んでいく契機となるもので次の活動に役立てたり生かしたりしていける性質をもっている。それは、将来の科学的な思考や認識、

合理的な判断、美的、道徳的な判断の基礎になる。

### (2) 知的な気づきを大切にす支援

知的な気づきを大切にしていく上で最も重要なことは、子どもの気づきを見取り、次の活動へと発展していけるようなことばかけや支援を行うことである。気づきは子どもがものを学んでいく上でのきっかけとなるものだから、教師は、子どもの気づきを知的なものにとらえ、子どもにとって意味や価値がもてるものとなるよう支援していくことが大切である。

#### ① 活動中の見取り方やことばかけ

活動中に、子どもは様々な表情・発言・つぶやきをする。これらを見取るには担任一人だけでなく、学年合同、T・T、機器の活用をすると、より効果的である。

#### ② 記録を次の活動に生かす

個人とクラス全体の記録を残していくことで、子どもの興味の方向や変化、成長の様子をつかむことができる。同じ活動をしていても、子どもの過去の経験や興味・関心のもち方、性格等によって気づきは様々である。個々に合ったことばかけを行い、気づきを連続・発展させていくよう支援していく必要がある。

#### ③ 作品の見取り方やことばかけ

その子なりの見方や表現を評価し、共感や感嘆のことばかけをすることで、次の行動への意欲を喚起できる。

すばらしい作品を作ることよりも、その過程での子どもの気づきや工夫が重要である。その点を考えて見取ることが必要である。

#### ④ 振り返りの中での見取り方やことばかけ

ポートフォリオ等、活動の足跡がわかるものを必要に応じて提示することで、子どもは自分の成長を自覚することができ自信をもてるようになる。

振り返りとは、活動を振り返り、自分が気づいたことや学んだことについて、ことば・絵・劇化・音楽などで表現して定着さ

せる活動である。また、この活動はお互いを見つめ合うことによって、自分や友達よさや育ちを実感できるチャンスでもある。

振り返りの活動では、そうした自分自身への気づきを見取り、自覚化させていくことが重要なポイントである。

子どもが友だちと関わって学んだことを具体的にほめていくことが大切である。そのことによって子どもは自分のしたことの価値を自覚したり、友だちのよさに目を向けていくことができるようになる。

### (3) 知的な気づきの定着

知的な気づきは、活動を振り返ることや表現することで、定着させることができる。

様々な活動の中で気づいたことを自分の体験に照らして表現したり、考えたことを表現していくことに意味がある。

表現による活動はこうした振り返ることにおいて、極めて有効な方法である。児童が自分が納得する表現方法を駆使していきながら、活動を整理していくことにより、知的な内容を獲得してだけでなく、自分の活動を改めて見直すことにより、成就感を味わい、それが一人一人の児童の自信となり、これからの活動に意欲的に取り組む基盤ともなっていくのである。

#### 〈表現方法〉

##### ① 言葉による表現

発表・ガイド・紹介・クイズ・歌  
インタビュー・質問・せりふを言う  
電話・紙芝居・ポスターセッション  
など

##### ② 文章による表現

作文・手紙・日記・新聞・カード  
ワークシート・絵本・物語・紙芝居  
パンフレットなど

##### ③ 絵・図等による表現

絵カード・絵地図・観察記録・日記  
ポスター・絵グラフ・紙芝居・生活  
科カレンダーなど

##### ④ 動作化・劇化による表現

ペープサート・人形劇・劇・踊り

歌・身体表現など

##### ⑤ 映像・音声による表現

写真・ビデオ・OHP・音楽・録音  
など

### (4) 発表交流会の工夫

生活科の学習では、子どもが別々の活動をしていたり、異なった表現方法をしたたりすることがよくある。また、同じような活動をしているように見えても、考え方や気づきなどは様々である。

教師は、こうした子どもたちの多様性を生かし交流を促すことによって、気づきや学びをより豊かにしていくことが重要である。具体的な活動や体験を通して、子どもが互いに関わり合う状況を作ることで、子どもは、他の子どもとの共通性や違い、その子ども自身のよい点などに気づくのである。

### 3 身近な自然に年間を通して関わることができる年間計画の作成

子どもたちにとって、身近な自然に浸り四季の変化を楽しむことは、諸感覚を養い、感性を育てるうえで重要な体験である。四季の変化に気づくには、前の季節での活動体験があり、前の季節と比べることによってはつきりしてくる。季節ごとに繰り返し同じ場所に行く活動（定点観察）ができるような単元構成で下記のような年間計画を立てた。

#### (1) 春→「私の町をしようかいしよう」

町の自然やお店、公共施設に行ってみつを教え合わせた。『探険マップ』作り

#### (2) 夏→「夏をたのしむ」

草花の観察と虫とりをして遊ばせた。『発見カード』『まとめカード』の掲示

#### (3) 秋→「秋を見つけよう」

秋の様子を調べ、春や夏との違いに気づかせた。

#### (4) 冬→「冬をさがそう」

生き物の冬越しの様子や一年間のまとめをする。

年間計画

月	単元名	小単元名	学 習 内 容
4月	わたしの町を よいかいしよう	・家の近くのひみつを見 つけよう	・自分たちの家の回りの広がりについて話し合う。 ・地域探険について話し合う。
5月		・家の近くのひみつを絵 と文で表そう	・誰と調べるか話し合う。 ・発見したことを絵や文で表す。
6月		・家の近くのひみつを発 表しよう	・自分の住んでいるところのひみつを発表する。
7月	夏をたのしむ	・公園をたんけんしよう	・夏の公園の様子を話し合う。 ・観察の仕方を知る。
8月		・夏の様子を発表しよう	・公園の植物や虫を観察する。 ・見つけたものや感じたことを絵や文で表す。
9月			・疑問に思ったことを調べる。 ・夏の公園の様子を発表する。
10月	秋を 見 つ け よ う	・春や夏の様子を話し合 おう	・春や夏の探険を思い出し、春や夏の様子を振り 返る。
11月		・秋を見つけに行こう	・秋の探険の計画を立てる。 ・秋の探険に行く。
12月		・すてきな秋を発表しよ う	・紹介する内容や方法を話し合う。 ・紹介することを調べたり、まとめたりする。 ・調べ方・まとめ方を知る。 ・発表会する。
1月	冬を さが そ う	・冬を見つけよう	・冬の公園の様子を話し合う。 ・冬の探険の計画をたてる。
2月		・まとめ会をしよう	・冬の探険に行く。 ・冬の様子や季節の変化を調べたり、まとめたり する。
3月			・発表会する。 ・季節の変化の感想を話し合う。

Ⅶ 授業実践

1 単元名 「秋を見つけよう」

(2) 地域の自然に関わり、発見したことや体験したことを工夫して表現し、教え合うことでお互いのよさを発見することができる。

2 単元目標

(1) 地域の自然に関心をもち、進んで探険する中で、今までの様子と違うことを発見し、季節の変化に気づくことができる。

3 単元について

2年生の子どもたちは、探険が好きで自然の中で虫を探して遊んだり、花を摘んで草花遊び



をしたりと自然に対してかなり高い興味・関心を持っている。

本学級では、6月の『わたしの町をしょうかいしよう』で自分の家の近くの秘密を紹介したり、グループで公共施設やお店・学童・公園などに行き、自分たちの町を紹介し合った。7月の『夏をたのしむ』で当山の石畳道に行き、草花の観察と虫とりをして遊んだ。9月には「探険に行きたい。」という子どもの声で「夏の終わり探険」を設定し、同じ当山の石畳道で探険をした。あまり季節感が感じられない沖縄でも、同じ場所に何度か探険に行くことで、夏から秋への変化を感じ取れるようになってきた。

そこで『秋を見つけよう』の単元を設定した。夏の頃の様子を思い出しながら同じ場所へ探険に行き、木の葉や草花・虫などの様子を観察し、また普段は気にもとめない空や雲の様子、風のさわやかさ、牧港川の様子など、身近な自然に触れ、五感を通して秋を感じ取り、自然への気づきを深め、体験を通して得た感動を分かち合うことを目指したい。

さらにこの学習は『冬をさがそう』の単元へとつながり、創造性と活動性を育てていくことになる。この4つの単元を通して、年間の四季の体験を総合的に学習する。

#### 4 児童の実態（アンケート調査の結果）

Q1 公園に遊びに行ったことがありますか。

よく行く 36%  
ときどき行く 32%  
あまり行かない 32%

Q2 浦添大公園は好きですか。

すき 75.0%  
きらい 3.6%  
わからない 21.4%

Q3 好きな季節は何ですか。（複数回答）

春 78.6%  
夏 89.3%  
秋 67.9%  
冬 78.6%

Q4 探険は好きですか。

すき 85.7%  
きらい 3.6%  
わからない 10.7%

Q5 探険した後何がしたいですか。

観察したい・何か作りたい・虫を捕まえたい・見つけたものを調べたい・ひみつを知りたい・図鑑を作りたい・育ててみたい

当山小学校校区には身近に公園があるので、日頃からほとんどの児童が公園で遊んでいる。学校の近くの浦添大公園は虫がいっぱいて、遊具もあり、自然がたくさんあって好きだという子が多い。遠足や石畳集会でもよく行くところなので愛着があるのであろう。嫌いな子は、「不気味なところ・虫がいっぱいて楽しくない」と答えている。

好きな季節で夏が多いのは、沖縄らしいところである。秋が少ないのは、季節感があまりないと言われている沖縄では秋を味わえないからであろう。

探険活動はほとんどの児童が好きである。ほとんどの子が、探険後に「観察したい・調べたい・知りたい」という思いをもっていることがわかった。

5 「思いや願いをもって活動させる」ための支援

(1) 探険活動の仕方を具体的に提示する。

五感をつかって、今まで以上にくわしく観察するようにさせる。

① 探険時の視点を提示

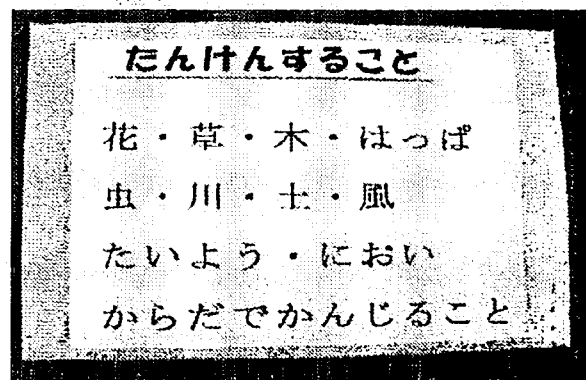


図1 探険時の視点

② くわしい観察の仕方を提示

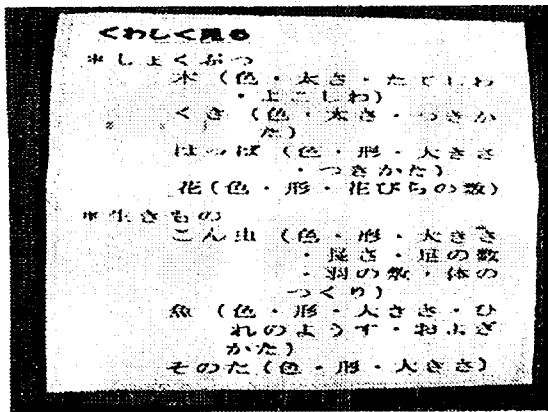


図2 探検時の視点

③ 観察の仕方

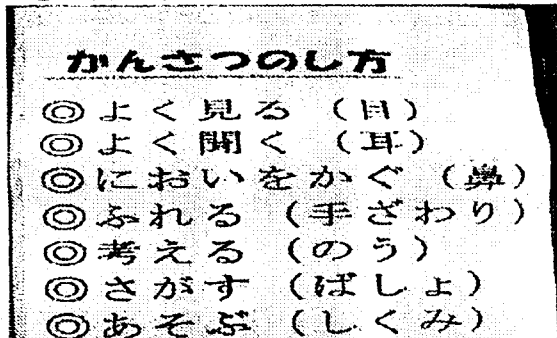


図3 探検時の視点

(2) 教室環境づくり

① いつでも振り返ることができるように今までの活動や資料の掲示。

- ・校区分けんマップ (春に作成した物)
- ・発見カード, まとめカード, 探検写真 (夏探検をした物)
- ・沖縄の秋の様子 (沖縄の生活図鑑より)
- ・発見カード, まとめカード, 探検写真 (秋探検をした物)



図4 教室背面掲示

② 活動コーナーの設置

児童が、主体的に活動できるようにコーナーをつくった。

ア 秋見つけたコーナー (『見つけたよカード』を個人別のポケットに入れる)



図5 秋見つけたコーナー

イ 図書コーナーの設置

図書館司書の協力を得て教室に図書コーナーを設け、いつでも手にとって調べられるようにした。

「おきなわ生活科ずかん春・夏・秋・冬」「木のふしぎ」「たけのこ」「川を探検」「秋のお天気」「草花あそび」「南の島の昆虫たち」など



図6 図書コーナー

ウ 学習カードコーナー

学習カードコーナーを設け、子どもたちが、自由に用紙をとり書き込むことができる。

エ 作品コーナー

見つけたものや作ったものを展示し、他の児童に紹介する。

(3) 学習カードの活用

学習への意欲づけや活動の広がり・深まり、活動の振り返りのために下記のようなカードを活用した。

① つぶやきカード

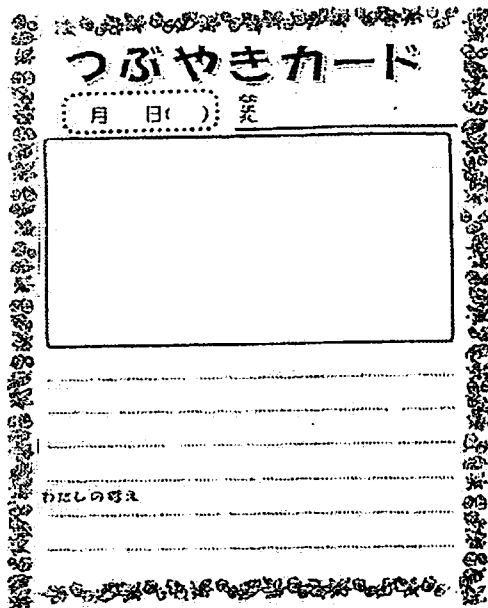


図7 つぶやきカード

② 発見カード

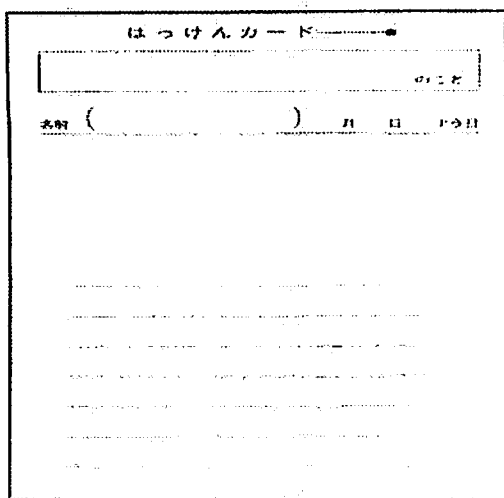


図8 発見カード

- ③ 見つけたよカード
- ④ 調べたよカード
- ⑤ よいところカード
- ⑥ 振り返りカード
- ⑦ まとめカード

(4) 調べ学習のための支援

調べるために図書室の本やコンピュータを活用した。教室に図書コーナーを設け、いつでも調べられるようにした。

- ① 図書館司書に協力してもらい図書室より、35冊ほど準備した。「おきなわ生活科ずかん春・夏・秋・冬」「木のふしぎ」「たけのこ」「川を探検」「秋のお天気」「草花あそび」「南の島の昆虫たち」など
- ② コンピュータは浦添市立教育研究所のホームページを利用した。同研究所のコンテンツ作成員とIT指導員に、研究所ホームページの中に教材として有効なものを入れてもらい、児童用のコンピュータのデスクトップから操作できるようにした。

(5) 多様な表現への支援

多様な表現ができるように下記のような表現活動の例を示した。本学級の児童に合わせて発表方法を絞った。具体的な作品を見せたり、教科書のまとめ方を参考にさせた。

新聞・絵本・ペープサート・紙芝居  
クイズ・図鑑・劇・物語・もの製作  
おもちゃ(遊び)など

6 指導計画 (12時間)

次	小単元	ねらい	単	学習活動 (作業仮説)	教師の支援・手だて
一 次	春や夏の様子を話し合おう	春や夏でかかわった人や自然について話し合い、地域の人々や場所、公共施設とのかかわりに関心をもつ。	1	○春や夏の探険を思い出し、春や夏の様子を振り返る ○友達のカードの中から気に入ったカードを選び、詳しく説明してもらい、自分でしてみたいことを交流する。 (作業仮説2)	・春の町探険カードや夏の自然探険カード、写真やアンケートを活用する。 ・たんけんマップや写真を掲示しておく。
二 次	秋を見つげに行こう	町の自然や人々のくらしの中からいろいろな秋を見つけ季節による変化に気づく。	1	○春や夏の頃と比べて、変わってきた町の様子について気づいたことを発表し、秋の探険の計画を立てる。 (作業仮説2)	・いろいろな視点で秋見つけができるようにする。 ・見つけたよカードやつぶやきカードを準備し、日頃から気づいたことを蓄けるようにしておく。
			2	○秋の様子を調べに行く(探険) (作業仮説1) ○当山の石畳道(夏の探険と同じ場所)で夏との違いを見つける。	・詳しく観察するために探険の仕方を提示する。(葉の形・茎の付き方・花びらの数や形・虫の体・秋の雲など)
			1	○探険のまとめをする。 (作業仮説2)	・自分なりの思いをもって、探険のまとめができるようにする。
三 次	すてきな秋を発表しよう	探険で見つけた自然を振り返り、気づいた自然のよさを教え合うことができる。	1	○課題ごとにグループを編成し、紹介する内容や方法を話し合う。 (作業仮説2)	・探険時のカードやメモを活用させる。 ・調べることやまとめ方、役割分担などを話し合わせる。
			2	○紹介することを調べたり、まとめたりする。 (作業仮説2)	・調べる方法として図書室やコンピュータなども活用させる。(調べるための本を準備したり、浦添市教育研究所のホームページを活用できるようにしておく。)
			1	○紹介するときに使うものを準備する。 ○グループごとに練習をする。	・多様な表現活動をさせる。(新聞・絵本・ペープサート・紙芝居・クイズなど)

			(作業仮説2)	
		2 時	○グループごとに発表する。 ○友だちのよさに気づく。 (作業仮説2)	・1つの発表が終わったら 質問の時間をとり、子ども の発見を広げるように する。
		1	○まとめをする。(作業仮説3)	

## 7 本時の指導 (10/12時間)

- (1) 単元名 「秋を見つけよう」  
～すてきな秋をしようかいしよう～
- (2) ねらい
  - 発見したことや調べたことを工夫して、発表することができる。
  - 発表を通して自分や友だちの良さに気づくことができる。
- (3) 授業仮説  
気づいたことや発見したことをまとめ、互いに発表し合うことで児童は友だちのよさを見つけ、また認められた満足感からさらに思いや願いをふくらませることができるであろう。
- (4) 発表交流会の工夫
  - ① 発表会を自分たちで運営できるように、司会は児童にさせた。司会原稿を作成し練習させた。
  - ② 子どもの思いや願いを伝えるために、自分たちの課題の動機や参考にした本・資料を発表させた。発表原稿を作成させ、発表の練習をさせた。スムーズに進行できるようにポスターにして掲示した。(図10参照)

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめのあいさつ</li> <li>2. 調べるきっかけ 伝えたいわけ</li> <li>3. 調べたこと</li> <li>4. 参考にした本や資料</li> <li>5. 質問</li> <li>6. おわりのあいさつ</li> </ol>
--

図9 発表の順序ポスター

- ③ 互いの気づきが広がり・深まるために疑

問に思ったことを質問できる時間を設定した。

- ④ 友だちのよさに気付けるように、それぞれの発表が終わったら「よいところカード」に友だちのよいところを書かせ、発表させた。友だちのよさを見つけるために、声の大きさや速さ、発表の工夫、態度などの視点を提示した。

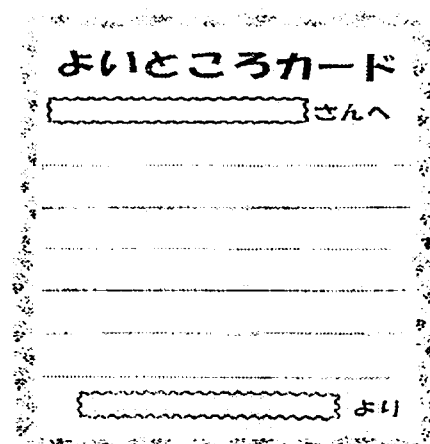


図10「よいところカード」

- ⑤ よいところカードは発表後、グループごとに貼り付け、各グループで見てもらい、次の発表の参考にさせた。

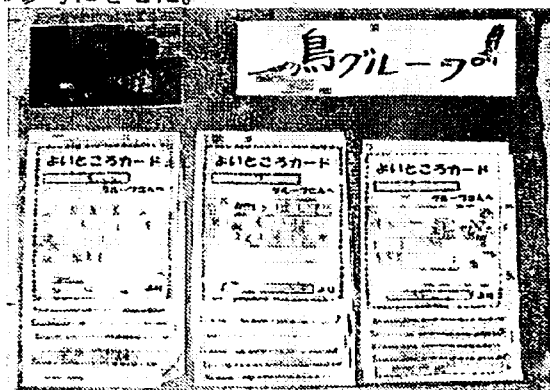
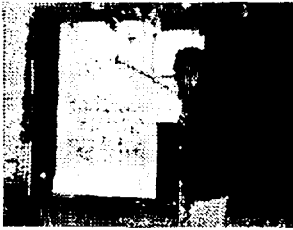




図11 「よいところカード」掲示

(5) 本時の展開

<準備するもの> 『よいところカード』・『ふりかえりカード』・発表会のプログラム

過程	学 習 活 動	教師の支援と留意点
導 入	<p>1, 学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>①調べたことを工夫して発表しよう。 ②友だちの発表の良いところを見つけよう。</p> </div>  <p>図12 めあて確認の場面</p>	<p>○これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認させる。 ○『よいところカード』と『ふりかえりカード』は事前に配っておく。</p>
展 開	<p>2, 発表会を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>①発表の仕方・聞き方を確かめる。 ・声の大きさや速さに気をつけて相手によく伝わるように話す。 ・静かに聞き友だちの頑張っていることを見つける。</p> </div> <p>②課題ごとのグループの発表をする。 司会は児童がする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・花→図鑑</li> <li>・雲→クイズ・説明</li> <li>・川→新聞</li> <li>・竹→紙芝居</li> </ul>  <p>図13 川グループの発表の様子</p> <p>[次時に発表するグループ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉やススキ→絵本・作品</li> <li>・鳥→新聞</li> <li>・木→新聞</li> <li>・虫→クイズ</li> </ul> <p>○友だちのよさを見つけ、よいところカードに書く。</p>  <p>図14『よいところカード』記入の様子</p>	<p>○発表の仕方・聞き方について確認させる。 ○発表の順序は児童が戸惑ったとき見ることができるように掲示しておく。</p> <p>○自分が見つけた秋を、自信を持って発表ができるように支援する。 ○グループの発表の後に聞いている子どもの感想や疑問を話させる。</p> <p>○友だちの見つけた秋に共感させ、互いに認め合うことができるようにさせる。</p> <p>○『よいところカード』を書く時間を少しとる。</p>

まとめ

3, 今日の学習のまとめをする。

○今日の学習の意見や感想を発表する。  
(『ふりかえりカード』や『よいところカード』に記入し発表する。)



図15 感想発表の様

4, 次時について知る。

○各グループの発表を振り返らせる。

○もっと調べたいことや友だちが見つけた秋を確認したいことなども発表させる。

○次時は残りのグループの発表であることを知らせる。

○次の単元「冬をさがそう」があることも知らせておく。

- (6) 評価 ○発見したことや調べたことを工夫して発表することができたか。  
○自分や友だちの良さに気づくことができたか。

(7) 授業の様子

① 児童の感想

H男さん：クイズで伝えることができた。

E子さん：きれいな水は大切だよということを伝えた。もっと川のことを調べたいなあと思った。

Y子さん：川がだんだんきれいになっていることをめあてにして発表しました。  
EMできれいな川になったのをみて、私たちもいっしょにやりたいなあと思いました。

K子さん：いろいろな葉っぱの形を伝えることができた。

Yu子さん：すすきはいろいろなことができるんだよって伝えられました。いろいろなことを調べるって楽しいし、自分が知らなかったこともできるからいいなあと思った。

S子さん：実際に作ってみんなによくわかるようにした。

C子さん：私たちが5年生になってもがんばるということを伝えることができた。  
(みんなに川をきれいにしてほしいことをいつも願っています。)

T男さん：今日の発表会はきんちょうでドキドキしました。

K男さん：発表してよかった。とても楽しかった。

(考察)

自分達が調べてまとめたことを、みんなに伝えることができて「よかった!」という満足感を得ていることがわかる。さらに深め、発展させていきたいという意欲が感じられる。

② 友だちのよさについての感想

D男さん：たいしさんがすらすらみんなにむかって発表していました。

T男さん：虫グループは声が大きかった。

K子さん：ゆきさんはいいせいで聞いていました。

M子さん：すすきグループはいろんなものを作っていて良かったです。

N子さん：今までいろんなことを調べたんだなあと思った。ゆうさんの声が大きくて聞きやすかった。

H男さん：インタビューや実験があつてすごかった。インターネットで調べてすごかった。

H子さん：クイズがおもしろかった。

Y子さん：絵や文でわかりやすく表現していた。

S子さん：ちかさんが見ないで発表していた。

友達の発表を聞いて、発表の方法やまとめ方、調べ方、発表時の態度など良さを認めることができる。児童は、友だちのよさにもたくさん気づくことができた。

## VIII 研究の考察

### 1 作業仮説(1)の検証

身近な自然に関わる場を計画的に設定することで、児童は自分の思いや願いをもって活動することができるであろう。

#### (1) 手だて

- ① 指導計画の中に、身近な自然に関わる場の設定。
- ② 思いや願いをもって活動させるための支援
  - ア 探検活動の仕方を具体的に提示する。
  - イ 教室環境づくり
  - ウ 学習カードの活用

#### (2) 結果

- ① 事前事後のアンケート調査結果より
  - ア 「探検は好きですか？」

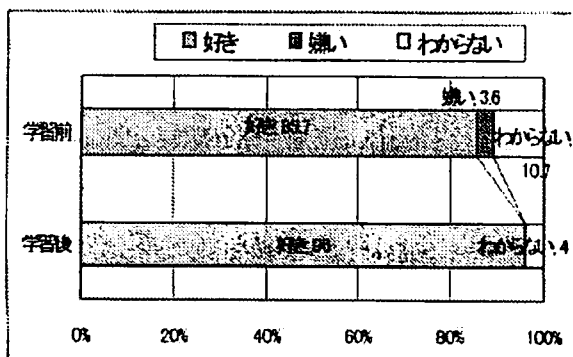


図16 「探検は好きですか」

#### (結果)

「探検は好き」と答えた子が96%で10.3%増えて、「嫌い」は0%、「わからない」が10.7%から4%に減った。

#### (考察)

ほとんど全員探検活動を好きになった。「分からない」と答えた子は「めんどろ。」と答えているが、学級の中では作業も早く、調べ学習でも1番に本を借り、積極的であった。活動そのものは嫌いではないと思われる。

イ 「自分の思いや願いをもって活動することができたか？」

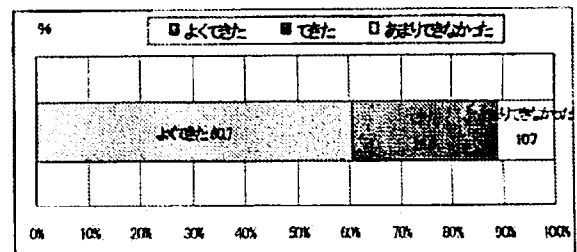


図17 自分の思いや願いをもって活動することができたか

#### (結果)

『自分の思いや願いをもって活動することができたか。』という問いに、「よくできた」が60.7%で、「できた」が28.6%で、「あまりできなかった」が10.7%いた。出来なかった子の理由は、「グループの話し合いでやりたいことができなかった。」「調べるときうまくいかなかった。」「鳥グループより葉っぱグループになりたかった。」などである。

#### (考察)

ほとんどの子が思いや願いをもって活動することができたと思われる。しかし、「あまりできなかった」という子はグループ活動のため自分の思いを通すことができなかったようである。本単元では課題ごとの自由なグループ編成をしたが、友だちに気を遣い、やりたいグループにはいらなかった子が後悔していると思われる。

#### ② 児童の感想より

##### ア 感想 (第5時)

H男さん：また、たんけんに行きたいなあ



思いました。こん虫のことを教えたいです。

Y子さん：いろんな秋がわかって楽しかったです。花について教えたいです。

N子さん：きせつがかわるほど学習が楽しいことを教えたいです。

M子さん：虫がいっぱいいて楽しかったです。いろいろなしぜんがありました。花や葉っぱのことをいっぱい知りたいです。

#### イ 感想 (第6時)

S子さん：すすきの大きさと高さ、葉っぱの色と大きさを調べたい。

H男さん：雲の誕生、雲の形や変化の仕方、風の強さを調べたい。

E子さん：なぜ、川はきたなくなるのか調べたい。

K子さん：花の咲き方を調べたい。

T男さん：虫のからだについて調べたい。

#### (考察)

「～行きたい」「～教えたい」「～知りたい」という感想から、活動を通して、具体的な思いや願いはさらに高まったと考える。

#### ③ 発見カードより (第3・4時)

T子さん：つばきの仲間の花を見ました。においは少しへんなにおいがしました。花びらは5枚で、ピンク色です。花の真ん中には、つぼみがあります。つぼみの近くの花びらに黄色のこながついていました。

S男さん：たんけんて夏と秋のちがいがわかりました。虫がいないことと、すすきがありました。夏にしかないセミのぬけがらが秋にもあったのです。

#### (考察)

探検活動の仕方を提示したことで、春や夏の探検に比べて、よりくわしく観察できるように

なつたと考える。また、定点観察をすることで季節の変化にも気づくことができるようになったと考える。

#### ④ 調べたり、まとめる段階の子どもの様子

- ・秋の探検に行く前から「OOを調べたい」と自分なりのこだわりをもって教師に話す子
- ・探検後に自分が見つけたものが「本に載っていたよ。」と本を見せる子
- ・「家から図鑑をもってきてもいいですか。」と調べる意欲をみせる子
- ・「実験してもいいですか。」と言う子
- ・「パンフレットがあるので持ってきてもいいですか。」と言う子

#### (考察)

教師に指示されなくても進んで活動する姿が見られ、主体的な学習態度が育つたと考える。

#### 2 作業仮説(2)の検証

気づいたことや発見したことをまとめ、互いに発表し合うことで、児童は友だちのよさを見つけ、また認められた満足感から、さらに思いや願いを膨らませることができるであろう。

#### (1) 手だて

- ① 発表交流会の工夫
- ② 調べ学習のための支援

#### (2) 結果

- ① 事後のアンケート調査結果より「次への思いや願いをもつことができましたか？」

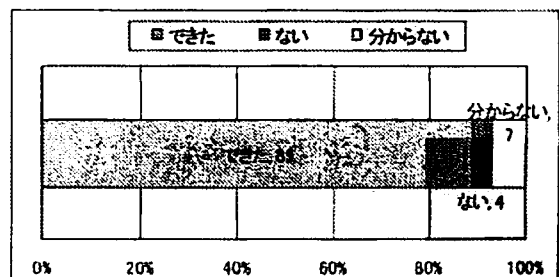


図18 次への思いや願いをもつことができましたか

(結果)

『次への思いや願いをもつことができましたか。』の問いに「できた」が89%、「ない」が4%、「わからない」が7%いた。

(考察)

ほとんどの子が次への思いや願いをもつことができたと思われる。具体的には、「虫を調べたい。」「花を調べたい。」「かえるを調べたい。」などのほかに「新聞を作りたい。」「発表をしたい。」という表現方法についての意見もあり、思いや願いについての幅が広がったと考える。

② 児童の感想より

T男さん：調べたいことがたくさんあった。  
 K男さん：木のふしぎなところやひみつを見つけられていっぱい学習できた。  
 S男さん：図書館の本をつかってこん虫のことを調べた。  
 H子さん：470番にいっぱい植物の本があった。コンピュータで花とか調べられてすごい!  
 C子さん：コンピュータで川のこと調べられなかったけど、水のことを調べたよ。  
 Yu子さん：コンピュータですずきのふくろうの作り方がわかった。  
 子さん：本で調べたりコンピュータで調べたりして楽しかった。新聞のかき方がわかった。  
 Y子さん：川のことやEMのインタビューがとてもたいへんでした。でもとても楽しかったです。インターネットでも調べて新聞がみんなより早くできました。ほかの先生方に教えるのはとてもむずかしいと思いました。  
 S子さん：みんなと話し合ったりしてうれしかった。

(考察)

児童は、自分の課題解決のために教室の本や図書室の本、コンピュータを使って意欲的に調べ学習をしていることがわかる。

「すごい!」「わかった」「楽しかった」「うれ

しかった」という感想から満足感がうかがえ、さらに思いや願いを膨らますことができたと考える。

③ 子どもの様子

・教室にある本だけでなく、学校の図書室に本を借りに行く子  
 ・5学年の先生やお姉さんたちにインタビューをした子  
 ・川の水質を調べるために川の水を取りに行く子  
 ・雲の形をコピーしたいという子

(考察)

教師が用意した資料以外にも自分たちで調べた方法や資料を見つけ、活動することができた

3 作業仮説(3)の検証

身近な自然と継続して関わることにより、児童は地域のよさを見つけ、愛着をもつことができるであろう。

(1) 手だて

- ① 冬の単元「冬をさがそう」を設定して、繰り返し関わらせる工夫をした。今までの経験を生かして、探険に行く前に自分が見たいものを決めさせて活動させた。
- ② 探険活動の仕方や諸注意の指導をして活動させた。

(2) 結果

- ① 事前事後アンケート調査結果  
 ア 「浦添大公園は好きですか?」

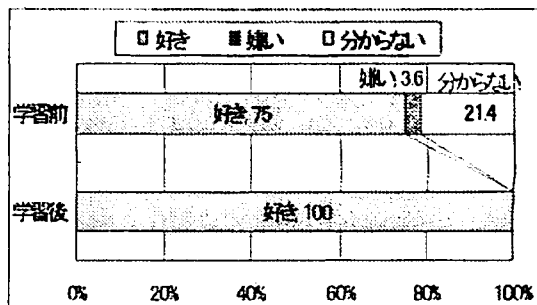


図19 浦添大公園は好きですか

(結果)

『浦添大公園は好きですか』の問いに「好き」が100%であった。その理由には、「自然がいっぱいあっていろいろの生き物が調べられるから。」「自分が知らない自然がいっぱいだから。」「たんけんができてとてもいい。」「虫がいっぱいでいいところ。」「木がいっぱいあって調べものがいっぱい見つけれられるから。」などである。

イ 「好きな季節は何ですか？」(複数回答)

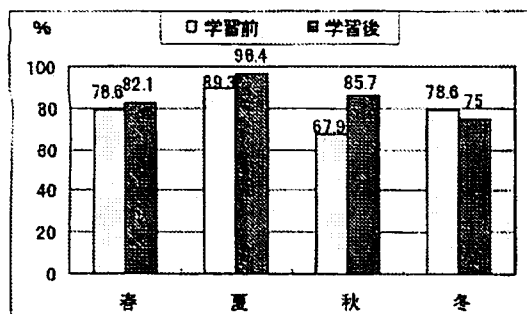


図20 好きな季節は何ですか(複数回答)

(結果)

『好きな季節は何ですか』の問いに「春」が82.1%で、「夏」が96.4%で、「秋」が85.7%で、「冬」が75.0%であった。すべての季節が好きと答えた子の理由には、「いろんな虫が季節によって違うから。」「季節によって自然が変わるから。」「わからないことがいっぱいあるから。」「いろんなことを調べたいから。」などがあった。

ウ 「学校のまわりの自然は好きですか？」

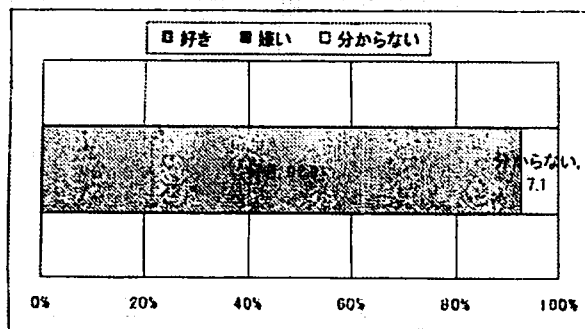


図21 学校のまわりの自然は好きですか

(結果)

『当山小学校のまわりの自然は好きですか。』という問いに、「好き」が92.9%で、「嫌い」が0%で、「わからない」が7.1%であった。好きな子の理由は「自然がいっぱいで、変わっていくからおもしろい。」「自然やわからない虫がいると思うからまた行きたい。」「川と風と葉の音が好きです。」「自然のことがいっぱい知ることができるから。」であった。

(考察)

図19からわかるように、継続して探検活動をすることによって、全員が浦添大公園を好きになることができた。

図20からわかるように、検証授業後には自分で見つけた秋だけでなく、友だちが見つけた秋の発表を聞いて秋のよさにも気づくことができたと思われる。また季節の変化を感じ取り、それぞれのよさも味わえたと考える。

図21からわかるように、ほとんどの子が浦添大公園だけでなく、学校のまわりの自然を好きになることができた。

以上のことから、身近な自然のよさに気づき、地域に愛着をもつことができたと考えられる。

### ② 冬の探検活動時の様子より

- ・冬の探検活動では、どこに何があるということがわかっているようで、走っておめあてのものを見に行く子がいた。
- ・秋の探検では発見カードを書く時間を設定したが、冬の探検では、発見したらその場ですぐに発見カードに記入していた。
- ・スコップをもって虫を探す子がいた。
- ・川の様子だけでなく、川に流れ込む溝がどうつながっているのかをのぞいていた子がいた。
- ・川にある泡をとって匂いを嗅いだり実験をしたいと言って持ち帰ったりしている子がいた。

(考察)

冬の探検活動時の子どもの様子からわかるように、今までの定点観察により、子どもたちは

どこに何があるということがわかったようである。つまり地域のよさがわかり、愛着をもつことができたと考える。

「冬をさがそう」の単元でも、それぞれの思いや願いをもって取り組んでいる。冬の単元ではグループではなく、個人で取り組むことにした。

## IX 研究の成果と課題

### 1 研究の成果

- (1) 身近な自然に関わる場を計画的に設定し手だてをすることで、児童に自分の思いや願いをもって主体的な活動をさせることができた。
- (2) 調べるための手段や手だてをすることで、児童に気づいたことや発見したことを自分なりに工夫してまとめさせることができた。
- (3) 発表交流会の工夫をすることで、児童に友だちのよさを見つけさせ、また認められた満足感から、さらに思いや願いを膨らませることができた。
- (4) 身近な自然と継続して関わらせることで、児童に地域のよさを見つけさせ、愛着をもたせることができた。

### 2 今後の課題

- (1) 子どもの思いや願いを満足させるには、十分な時間と一人一人に応じた細かい手だてが必要である。
- (2) 専門家や地域の人材を活用していきたい。
- (3) 教材研究を深めていきたい。

### おわりに

本研究所では「身近な自然とのふれあいを通して主体的に活動する子どもを育てたい」ということで半年間研究を進めてきましたが、本研究につなげるために、春から1年間の四季の体験を想定し、自分なりに取り組んできました。春・夏は手探り状態で体験活動を中心に進めてきましたが、10月からは現場を離れ、理論研究をしながら今までの実践を見直し、理論で裏付けられた実践ができたと思います。

事前の準備も大変でしたが、子どもたちの満足した顔やさらに追求していこうとする姿を見ると、子どもの思いや願いを生かすことができたという充実感ともっと研究を続けたいという気持ちになりました。この研究での成果と課題を現場に持ち帰り、さらに深めていきたいと思っています。

研究期間中、いつも温かく見守りながらご指導して下さいました本研究所の比嘉信勝所長、當間正和係長、石川博基指導主事、山里昌樹前指導主事をはじめ本研究所の職員の皆様に心より感謝申し上げます。また、様々な角度からご助言をして下さいました浦添市教育委員会の諸先生方、教科指導員としていつも親身になって励ましご指導して下さいました前田小学校の長嶺竹美教頭先生に深く感謝申し上げます。更に、研究の機会を与えて下さいました当山小学校の伊禮厚子校長先生をはじめ、研究に協力して頂いた当山小の同学年の先生方、温かい言葉をかけて頂いた当山小の職員の皆さんにも感謝申し上げます。本当に有り難うございました。

- 【主な参考・引用文献】・「小学校学習指導要領解説 生活編」文部省 日本文教出版 1999
- ・「生活科の授業と評価 下」田中力・寺崎千秋編 教育出版 2002
  - ・「生活科の授業 NO. 1/NO. 2」鳩野道弘編・著 小学館 2001
  - ・「小学校生活科・総合的な学習」鳩野道弘編著 東洋館出版社 2002
  - ・「研究報告収録(第30集)」沖縄県立教育センター 2001
  - ・「評価と学習カード 生活科」鳩野道弘編 小学館 2003